

## 世界子ども救援キャンペーン 「少女たちの祈り ネパールから」



「ペン先に光る決意」停電の時間帯に太陽光で発電するランタンの明かりを使って自習する寮生＝ネパール・ポカラのさくら寮で、幾島健太郎撮影



倒壊した家屋に住み続けているというサッテ・バンナラさん。長女トリナスちゃんを抱きながら「毎日が不安。子どものためにも早く普通の生活を送りたい」と語った＝バクタプルで、幾島健太郎撮影

「世界子ども救援キャンペーン」は、大阪本社社会部・武内彩記者と同写真部・幾島健太郎記者を、2015年8月30日から10月15日までネパールに派遣しました。

本団が毎日新聞社とタイアップして1979年から続けている37年目のキャンペーンです。

「最貧国で生きる女の子」をテーマに、女性差別や児童結婚(18歳以下での結婚や出産)など、厳しい環境の中で生活する女性の姿を中心に、人身売買の現状や、2015年4月25日に発生したネパール地震のその後なども取材しました。

キャンペーンの写真と記事は、「少女たちの祈り ネパールから」のタイトルで、10月26日付朝刊から11月1日まで6回にわたり毎日新聞紙面で紹介しました。11月22日、12月4日には見開き特集も掲載しました。

### ネパール地震救援金 1,300万円を贈呈

2015年4月25日にネパールを襲った巨大地震の被災者救援金を4月28日付、毎日新聞紙面で募集しました。

寄せられた救援金は、アジア協会アジア友の会(大阪市西区)に600万円(500万円、100万円の2回)、AMD(岡山市)に500万円、国連UNHCR協会(東京都)に200万円の合計1,300万円を贈りました。

### 台湾地震救援金602万円贈呈

2016年2月6日に発生した台湾地震への救援金を、毎日新聞紙面で募集しました。全国の読者から東京・大阪・西部の社会事業団に集まった救援金594件602万円を、3月11日に台北駐日経済文化代表処に寄託しました。

### 世界子ども救援金贈呈先一覧

2015年度の「世界子ども救援金」は「取材地助成」「公募助成」「継続支援助成」の3つの助成を行いました。

#### ●「取材地助成」(ネパール支援)4団体へ 総額250万円を贈呈(内100万円はネパール地震救援金より支出)

1. アジア協会アジア友の会
2. 日本ネパール女性教育協会
3. ラリグラス・ジャパン
4. 国連UNHCR協会

1. 子どもの家」の支援)
2. シエラレオネフレンズ(シエラレオネでの子どもたちの支援活動)
3. ネパール・ヨードを支える会(ヨード欠乏症に悩む子どもたちの支援)
4. マハム二母子寮関西連絡所(バングラデシュ・チッタゴンにあるマハム二母子寮の子ども支援)

#### ●「公募助成」4団体に総額120万円を贈呈

1. アイキャン(フィリピンで運営するストリートチルドレンのためのドロップインセンターと児童養護施設「子

#### ●「継続支援助成」2団体に総額60万円を贈呈

1. ハイチ友の会
2. 難民を助ける会(AAR)

## 東日本大震災救援金

2015年度は3月末までに152件558万4,527円が寄せられました。

第14次分400万円を、9月3日に日本赤十字社に贈呈しました。

今回で本団の寄託総額は4億6,427万2,718円になりました。

## 毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん



東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」制度(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は発足、5年が経過しました。

2015年3月13日付毎日新聞朝刊で、「毎日希望奨学生を募集」の社告を掲載するとともに被災地の高校や大学などに直接照会をかけました。50人の応募枠に対して76人が応募。5月1日に奨学生選考委員会が開かれ、全員一致で76人の支給を決定しました。奨学生数は継続者と合わせて217人(高校生123人、短大・大学生76人、専修学校生18人)に。10月に2人退学者が出たため、下記のとおり支出しました。

### ■2015年度

4月25日、217人に(4、5、6月分:6月25日支給の新規分含む)1,302万円を支給。

7月25日、217人に(7、8、9月分)1,302万円を支給。

10月24日、215人に(10、11、12月分)1,290万円を支給。2人退学

2016年1月25日、215人に(1、2、3月分)1,290万円を支給。

小計5,184万円

### ■2014年度

・214人(最終数)5,154万円を支給

### ■2013年度

・240人(最終数)5,766万円を支給

### ■2012年度

・188人(最終数)4,554万円を支給

### ■2011年度

・156人、3,744万円を支給

2011年からの合計支給額

2億4,402万円

## 関東・東北豪雨災害救援金

茨城県や宮城県などで土砂崩れや河川氾濫による浸水被害が出たことから2015年9月12日、毎日新聞紙面で「関東・東北豪雨災害救援金」の募集を開始しま

した。

16年3月末までに、日本赤十字社本社、同茨城県支部へ、合計858万円を贈呈しました。



## 配食サービス車を大阪府茨木市の「静華苑」に贈呈

2015年9月2日、社会福祉法人「慶徳会」(大和治文理事長)が運営する大阪府茨木市の「在宅サービス供給ステーション静華苑」に配食サービス車1台を贈りました=写真。贈呈事業は毎日新聞読者からの寄付金などをもとにしており、1999年から始まり、今回で29台目です。

「静華苑」は82年に茨木市で最初のデイサービスセンターとして開所。90年から同市の委託を受け、配食サービスを開始しています。栄養に配慮した手作り弁当を、毎朝・昼・夕の計約50食用意し、一人暮らしの高齢者や障害者らに、安否確認の声かけをしながら配達しています。

配食サービス車は特別仕様のデベロ社(本社・水戸市)製軽ワゴン車で、約30食を運べます。



## 第45回毎日社会福祉顕彰

社会福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する「第45回毎日社会福祉顕彰」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)は、推薦された30件の中から次の3件が選ばれました。賞牌と賞金(各100万円)の贈呈式は2015年10月26日に毎日新聞東京本社で開かれました=写真(左から順に)。

◇ワット隆子さん=「あけぼの会(乳がん

患者の会)」会長(東京都目黒区)

乳がんの手術を受けたことを契機に「あけぼの会」を1978年に設立。会員は全国で3,000人を数えます。患者同士が社会復帰のために助け合うことと、乳がん検診の呼びかけなどの啓発活動が会設立以来の2本柱です。

◇芦沢茂夫さん=支えあう会「ピーチ&グレープ」代表(山梨県南アルプス市)

車いす生活者の生活改善やバリアフリー化に尽力。2010年には障害者とボランティアで支えあう会「ピーチ&グレープ」を設立。県内の飲食店などに協力を呼びかけ、段差にスロープを設置してもらうなどの活動を進めています。

◇認定NPO法人「ホームホスピス宮崎」=市原美穂理事長(宮崎市)

1998年、県内に緩和ケア病棟を設置しようと発足。2004年には民家を活用、病院や福祉施設で受け入れを断られた難病や介護レベルの重い患者が暮らす「かあさんの家」を開設。「地域で自分らしく生きてもらう」という考え方が新たな在宅ホスピスの先駆けとして注目されています。

## 第45回 毎日社会福祉顕彰贈呈



## 施設児童一泊交流会

大阪市の児童福祉施設で暮らす子どもたちの一泊交流会が、2016年2月27、28日に愛知県内で行われました。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟、本団の共催で、淀川区の博愛社など10施設から小学6年生40人が参加しました。

1日目は犬山市の「博物館明治村」で、グループに分かれての体験学習がありました。各地から移築された名建築や、草創期の電車や蒸気機関車などの文化財を見学。明治時代の文明の進化を調査しました。

2日目は名古屋市科学館でプラネタリウム鑑賞などを行い、大きなドームに写し出される星空に、子どもたちは目を輝かせていました。



## 🌻「施設児童就職予定者研修会」91人に「祝い金」贈呈

就職などで大阪府内の児童福祉施設から独り立ちする中高生・短大生を対象にした「施設児童就職予定者研修会」（大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会児童施設部会、本団主催、シェラトン都ホテル大阪協力）が2016年2月6日、大阪市天王寺区の同ホテルで開かれました。席上、本団は、読者からの寄金をもとに、1人1万円の「就職祝い金」を全就職予定者91人に贈りました。

同アフターケア事業部が、昨年7月から毎日放送アナウンサーによる「話し方セミナー」や、弁護士による「身近な法律の話」などの「自立生活技術講習会」を13回にわたり実施。その最終回に研修会を開きました。今までの講習会を振り返り、施設出身の先輩の体験談＝写真＝を通して、実社会で生き抜くための技術を学ぶとともに、テーブルマナー講習、府警音楽隊による壮行ドリル演奏、各団体・協力企業からも祝い品が贈られ、生徒たちを激励しました。



## 🌻「公募助成金制度」9団体に贈呈

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や、先駆的の事業でどこからも援助がない団体に一般公募で助成する制度です。2015年度は次の9団体に総額270万円を贈りました。

### 〈公募福祉助成金〉

3団体に総額80万円を贈呈

- ・アンビシャス・ネットワーク(半田市)
- ・神戸真生塾 子ども家庭支援センター  
ロータリー子どもの家(神戸市)
- ・ひだまり(鳥取市)

### 〈シンシア基金助成〉

2団体に総額70万円を贈呈

- ・日本介助犬協会(長久手市)
- ・兵庫介助犬協会(西宮市)

## 〈世界子ども救援金公募助成〉

4団体に総額120万円を贈呈

※詳細は1面下段を参照

## 🌻「小児がん征圧募金」6団体に贈呈

毎日新聞社と展開している「生きる」キャンペーンに寄せられた「小児がん征圧募金」の贈呈式が2016年3月2日、毎日新聞大阪社会事業団でありました。

募金は患者支援や研究に取り組む団体に毎年配分。本団から各30万円、総額180万円が次の6団体に贈られました＝写真。

- 1.あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋)
- 2.京大病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」(京都市)
- 3.京都ファミリーハウス(京都市)
- 4.近畿小児血液・がん研究会(吹田市)
- 5.チャイルド・ケモ・サポート基金(神戸市)
- 6.日本クリニックラウン協会(大阪市)



## 🌻「児童福祉施設へ囲碁セットなどを贈呈

2016年2月18日、昨年11月に大阪市内で開いた「第48回歳末たすけあいチャリティー指導碁会・チャレンジ碁力認定戦」（日本棋院、スポーツニッポン新聞社主催、本団後援）の収益金で、碁盤・碁石製造販売の井上一郎製作所（大阪府松原市）の協力による囲碁セットなどを、大阪市が管轄する児童福祉施設3カ所に贈呈しました。

和田堅吾常務理事らが天王寺区の高津学園を訪れ、田尻達朗施設長に囲碁セットとともに、子どもたちに囲碁ブームを巻き起こした漫画「ヒカル碁」全23巻、本団所蔵の絵画を手渡しました。

田尻施設長は「子どもたちのために、有効利用させていただきます」と話していました。

このほか、西区の児童院と高槻市の阿武山学園にも同様に、囲碁セットと漫

画、絵画を贈呈しました。

## 🌻「第47回新春こども大会」開催

児童福祉施設で暮らす子どもたちの発表会「第47回新春こども大会」（大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催）が2016年1月31日、天王寺区民センターで開かれました。

大阪市が管轄する9施設から約300人が参加。子どもたちは冬休みに練習した人形劇やダンスを披露しました。司会進行を朝日放送のアナウンサーが務め、京セラドキュメントソリューションズや大阪市こども相談センターの有志バンド、沖縄の伝統芸能をベースにした創作太鼓グループ「琉球國祭り太鼓」のメンバーらがボランティア出演し、会場を盛り上げました。

また、会場ロビーには子どもたちが描いた絵画コンクールの作品約200点が展示され、優秀作品の表彰式も行われました。

## 🌻「歳末たすけあい運動」報告

「歳末たすけあい運動」を2015年11月11日～12月25日に実施しました。79回目を迎えた「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」は12月12日～14日、毎日新聞ビル地下1階のオーバルホールで開催し、1,865万円の売り上げがありました＝写真。歳末義援金1,313万円を加え、総額3,178万円となりました。

売上金と義援金は、児童福祉施設や更生保護施設などの団体に歳末慰問金として贈呈したほか、公募福祉助成や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童のキャンプなど、今後1年間の多彩な社会福祉事業の資金として有効に役立てます。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。



## 🌻「ゆうゆうキャンプ」開催

大阪府内の被虐待児童らを対象にした「ゆうゆうキャンプ」が2015年8月11、12日、大阪府岬町の府立海洋センターで開かれました。

小中高生や学生リーダーなど24人が参加し、クルーザー乗船やカヌー体験、タイヤチューブと木の板を使ったいかだ作りなどを満喫しました＝写真。



日ごろの生活を忘れ、生き生きと子どもらしく過ごすてもらおうと、家庭児童相談室などで継続的に支援を受けている子どもたちを対象に、大阪府青少年活動財団と本団が共催で行っている事業です。

10月18日は河内長野市の関西サイクルスポーツセンターで、2016年2月6日には吹田市自然体験交流センターでのデイキャンプなど、年3回の野外活動を行いました。

## 🌻交通遺児らを励ます「そよかぜ杯ボウリング大会」開催

大阪、京都、奈良、兵庫の各府県から、交通遺児とその家族約90人が参加した「第24回そよかぜ杯ボウリング大会」（大阪交通遺児を励ます会、本団主催）が2015年6月14日、大阪市北区の桜橋ボウルで開かれました。

子どもも大人もボールを手に真剣な表情。ストライクが出る度に歓声があがりました。

ゲーム終了後は昼食会と成績発表があり、入賞者には賞品が渡されました。参加者らは笑顔で交流し、来年の再会を誓いました。



## 🌻第30回大阪市児童福祉施設 駅伝・ロードレース大会

「第30回大阪市児童福祉施設 駅伝・

ロードレース大会」が2016年1月23日、大阪府吹田市の弘済のぞみ園・みらい園グラウンドと周辺で開かれました。大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催で、大阪市が管轄する児童福祉施設の小中学生約400人が参加しました。

午前中は小、中学生が男女に分かれてのロードレース大会。午後は駅伝と綱引きが行われました。仲間の熱い声援を背に、子どもたちは日頃の成果を発揮しようと力の限りゴールを目指していました。施設職員や後援の京セラドキュメントソリューションズの社員らが運営に協力。恒例の豚汁が振る舞われました。

## 🌻「専門点訳・音訳講習会」を開催

「専門点訳・音訳講習会」は、視覚障害者が使用する外国語や東洋医学、楽譜などの専門書を点訳、音訳するボランティアを育てようと、「点字毎日」創刊65周年記念事業として1987年に始まりました。現在は日本ライトハウス情報文化センターと本団の共催で、年間4回の講習会を開いています。

2015年度は点訳「東洋医学コース」、音訳「音声表現技術コース・会話文の読み方編」、「デイジー編集コース・基礎編」、「デイジー編集コース・応用編」の講習会を開催しました。これまでの修了者は1,600人を超え、各地の点訳・音訳グループや点字図書館などで活躍しています。

## ご寄付の方法

### ■郵便振替でのお振り込み

郵便局に備え付けの払込取扱票（振替用紙）に金額、住所、氏名、連絡先などの必要事項をご記入のうえ、お振り込みください。送料（手数料）無料の払込取扱票（振替用紙）を必要な方は、本団までご請求ください。

- 郵便振替口座番号 00970-9-12891
- 加入者名（送り先）  
毎日新聞大阪社会事業団

### ■現金書留でのご送金

〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5  
毎日新聞大阪社会事業団

\*「社会福祉に」「毎日希望奨学金」「世界子ども救援金」など、寄付項目を通信欄に必ずお書きください。

\*金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきまます。匿名や掲載不要を希望される方は通信欄に「匿名」など、お書きください。

### ■ご持参

直接、本団事務所へ。大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞ビル16階。

平日は10時～18時まで受付（土、日、祝日は休み）。

### ■お問い合わせ先

公益財団法人

毎日新聞大阪社会事業団

〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5

電話 06-6346-1180

ファクシミリ 06-6346-8681

E-MAIL: mainichi-osj@sirius.ocn.ne.jp

ホームページ [http://www.mainichi.co.jp/osaka\\_shakaijigyo/](http://www.mainichi.co.jp/osaka_shakaijigyo/)

**毎日新聞大阪社会事業団へのご寄付は、所得税および法人税の優遇措置が受けられます。また、ご遺産、遺贈された財産についても相続税はかかりません。**

## 編集後記 49

◆「ローマの休日」(1953年)で銀幕の妖精となったオードリー・ヘプバーンは、第2次世界大戦時に飢えに苦しむ辛い幼少期を送り、半生を恵まれない人々への支援に充てることを決意したそうです。

◆特に89年のユニセフ親善大使就任後は、アフリカ、中南米、アジアなどの国々で食糧支援や予防接種の普及、水道設備設置に尽力する神々しいまでの活躍が世界中に報道され、感動を与えました。

◆63歳で死去する4カ月前まで貫かれたこの姿勢は、悲惨な状況に無関心な国の政治家たちへの訴えでもあったといえます。人生の最後の時まで力を振り絞った妖精の「魂」の叫びは、今なお通じます。(和)